

母校支援の中核は卒業生＝学員

学員ネットワークの一層の拡充・強化を

中央大学では卒業生を「学員」と呼び、その同窓会として「中央大学学員会」(会長・久野修慈＝中央大学理事長)を組織しています。中央大学の卒業生は、創立以来 53 万人を超えていますが、そのうち、住所がわかっている学員は約 28 万人です。この卒業生相互の学員ネットワークづくりが学員会の重点課題です。

大学間競争に勝ち残るために 社会的、経済的支援が必要

少子化や高等教育に対する価値観の多様化、さらには景気の低迷などによって、今日、大学の経営環境は大変厳しくなっています。国公立大学では大学・学部統廃合が進み、私立大学では閉校するところもでています。各大学は、まさに生き残りを賭けた激しい競争のただ中にあります。

このような中で、母校・中央大学がブランドイメージを維持・向上させ、大学間競争に勝ち残っていくためには、社会的にも経済的にも、さまざまな支援が必要です。そして、その支援の中核的な存在は卒業生＝学員です。この学員の絆を強めるための「学員ネットワークの一層の拡充・強化」は、母校が将来にわたり活動・発展していくために必須の課題と言えます。

学員サービスと支部支援

学員の社会での活躍をサポート

社会に出た学員が地域や職域などさまざまな場でネットワークをつくり、社会のさまざまな場面で活躍することは、在学生にとって大きな支援となるばかりでなく、大学のブランドイメージの向上にも貢献します。

その観点から、学員会は、主に学員へのサービスと学員会支部への支援を行っています。

学員へのサービスは、会報である「学員時報」やホームページ等による情報発信、学員交流の場の提供(駿河台記念館)、大学主催のホームカミングデー

への協力、学術講演会の後援などを行っています。学員会支部への支援としては、支部への活動支援費の交付、支部役員会開催のための会議室提供などを行っています。このほかにも母校中央大学への資金協力および在学生への奨学援助、進路相談会、学術文化・スポーツにおける優秀学生表彰などを実施しています。

また、法人役員(私立学校法による大学評議員等)の推薦も行い、中央大学の経営にも参画しています。

学員会費納入の有無で 享受するサービスに差がある

学員会の活動は、学員が納付する学員会費によって賄われていますが、納付者は現在約 11 万人となっています。母校・中央大学の卒業生は、卒業と同時に「学員」となり、学員会の会員となりますから、約 17 万人が学員会費の納入をして

おらず、そのため会報「学員時報」や大学・学員会からの各種案内を定期的に受け取れない、学員会の意思決定の場にも参加できないなど、学員としての特典を享受できずにいます。

この約 17 万人の多くは、学員会(組織)の存在、学員会費の納入方法を知らないものと思われます。これまでも「学員会に入会するにはどうするのか」という問い合わせがありました。「すべての卒業生は学員会の会員である。ただし、学員会費納入の有無で、享受するサービスに差がある」ことが周知されていなかったわけです。

そこで学員会では、今年、学員会の活動内容を知っていただき、学員としての特典を享受していただくための会費納入の方法をお知らせするために、会報「学員時報」や本誌「中央大学の近況」を活用したPR活動を大々的に展開することにいたしました。



中央大学学員会は5月11日に平成24年全国支部長会議、12日に定時協議員会・定時学員総会を、ともに駿河台記念館で開催し、今年の活動の基本方針と活動計画を承認しました。写真は11日の全国支部長会議で登壇した学員の平野博文(昭46理工卒)。「私もOBの一人として、中大に貢献していく気概をあわせ持っている」と挨拶しました。(「学員時報」第477号掲載記事より)